

ら詳しく説明しよう。これは、ヘッドホン再生でありながら、スピーカーでの再生と同じように前方に展開する音場を実現する技術。頭部や耳、顔の形状の影響を個別に測定することで、単に頭外定位を実現するだけでなく、測定した空間(部屋)の広さなどの音響特性、再生したスピーカーの音質までも再現できるというもの。疑わしいと感じる人も少なくないと思うが、実際に体験するときわめて高精度にこれらを実現したと感じられる。まさに魔法のような技術だ。

そのため、ウイズミュージックのパッケージに含まれる個人の特性測定には特別な場所が用意される。販売価格90万円となるWiZMUSIC90では、東京・青山にあるビクタースタジオの「EX Room」で測定を実施する。ここは、レコーディングした音源の最終チェックや、オーディオ製品の確認も行なわれる場所。音楽の作り手たちが聴いている音が再現されるというわけだ。

ここでの測定はユーザーとその家族3人(計4人)まで行なうことができる。これに合わせて、ハードウェアとして、専用ヘッドホンであるHAWM90とポータブルヘッドホンアンプSUAX01とバランス対応のヘッドホンケーブル(1.8m)がセットとなる。このほかに、200曲相当のハイレゾ音源の提供、商品引き渡し時のビクタースタジオの見学体験などが特典として盛り込



## ビクターの重要拠点「EX Room」での測定



↑専用のハードケースに収められたヘッドホンHA-WM90と本革キャリングケース。限定台数がナンバリングされたオーナー専用プレートも付属する

→付属するヘッドホンアンプはJVCのSU-AX01。スマートフォンやPCを接続してデジタルファイル再生可能だ。HA-WM90をバランス駆動するためのケーブルも付属する

WiZMUSIC90の重要な要素として、青山のビクタースタジオ内にある「EX Room」での個人音響測定が挙げられる。完成した音楽ソフトやオーディオ製品のチェックにも使われるというリスニングルームで、ビクターの“音の出口”の要だという。WiZMUSIC90とは、この重要拠点を“持ち歩ける”画期的なサービスなのだ。また、WiZMUSIC90では製品の引き渡しがビクタースタジオで行なわれ、その際にはスタジオの見学体験もできる



まれている。より身近な価格のWiZMUSIC30(販売価格30万円)は、測定場所が同社グループのJVCマスターリングセンター赤坂スタジオとなる。また、ヘッドホンHAWM90は共通だが、ヘッド

ホンアンプがSUAX7、接続ケーブルはアンバランスケーブルとなる。これが主な違いだ。続いて、ヘッドホンHAWM90を紹介しよう。ドライバーユニットは新開発の40mmドライバーで、磁力の高いネオジ

ウムを磁気回路に採用。これをハウジングに直接固定するダイレクトマウント方式を採用する。ハウジングの素材は、無垢の天然メイプル材だが、北アメリカの冷たい水底に約160年沈んでいたヴァインテージウッド「アークアティンバー」

# 目の前に音場が広がる ヘッドホンリスニング革命



## WiZMUSIC90

- ¥900,000 (税込、300台限定)
- パッケージ内容：ヘッドホン HA-WM90、ヘッドホンアンプ SU-AX01、バランス対応ヘッドホンケーブル (1.8m)、収納用ハードケース、本革キャリングケース、個人測定データファイル、ハイレゾ楽曲 (200曲相当) 他
- 測定サービス (測定場所/測定対象)：ビクタースタジオ「EX Room」/ 購入者本人とその家族最大4名
- ラインナップ：WiZMUSIC30 ¥300,000 (税込)
- 備考：製品の引渡しは10月
- 問合せ先：ビクター WiZMUSIC専用ダイヤル ☎0120-228-554

去る3月、JVCケンウッドはビクターブランドを再定義し、復活させることを宣言した。そして、明らかになった新ビクター製品の第1号がWiZMUSIC(ウイズミュージック)。ビクター復活と同日に発表されたヘッドホンリスニングでの頭外定位技術EXOFIELD(エクソフィールド)を利用した「音場特性カスタムサービス」だ。ヘッドホンリスニングの常識を覆す、ウイズミュージックの詳細に迫る。(編集部)

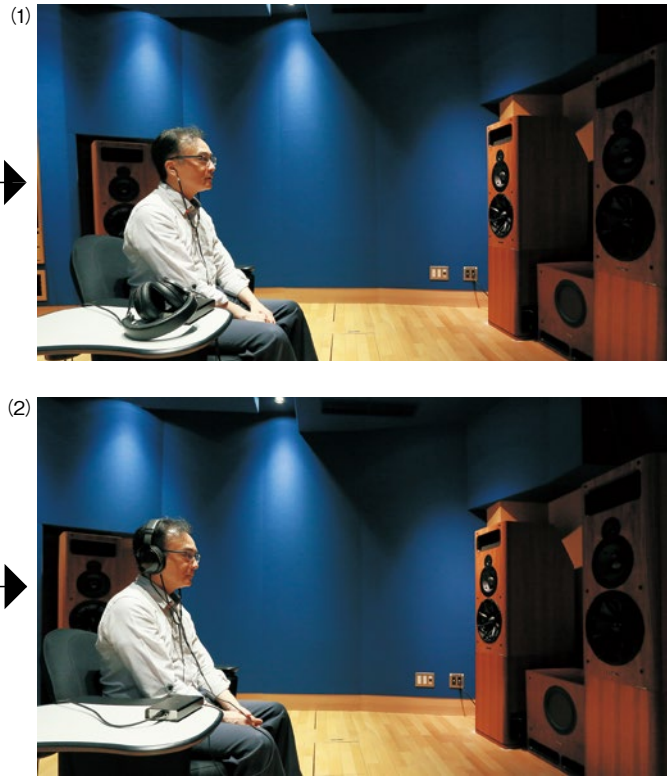
JVCケンウッドは、旧日本ビクター創立90周年となる今年、ビクターブランドを復活させた。その第一弾となる製品が「WiZMUSIC(ウイズミュージック)」。これは、同社が開発した「EXOFIELD(エクソフィールド)」というヘッドホンリスニングの頭外定位音場処理技術を使った音場特性カスタムサービスだ。まずはエクソフィールドという技術が



## 計測はものの数分 あなただけの カスタマイズが完了する



聴診器のようなマイクを左右の耳にセットし、(1)スピーカーの再生音(写真右上)を、(2)ヘッドホン(HA-WM90)の再生音(写真右下)を順に測定する。おおまかに言えば、双方を校正し、ヘッドホン再生時にスピーカーの再生音をシミュレートする技術だ



難しい頭外定位の実現が大きな特徴と

### いつでもどこでも スタジオの音を楽しめる

WiZMUSICは、ヘッドホンでは高い静かな空間で残響も少なめだ。ここで会話をすると明瞭に聞こえ、居心地のよい自然な音響に整えられていることがわかる。その室内にはモニターとしてPMCのMB2が5台あり、それぞれブライトンのモノラルパワーアンプで駆動される。

ヘッドホンリスニングスタイルの革命と言ってもいいこの新しいサービスを、ぜひとも体験してみたい。

この効果は実際に体験しないと、どうしても理解しにくいものなので、体験会を全国で展開することも検討している。

ヘッドホンリスニングスタイルの革命

ヘッドホンリスニングスタイルの革命

ヘッドホンリスニングスタイルの革命

ヘッドホンリスニングスタイルの革命

ヘッドホンリスニングスタイルの革命

ヘッドホンリスニングスタイルの革命

ヘッドホンリスニングスタイルの革命

ヘッドホンリスニングスタイルの革命

ヘッドホンリスニングスタイルの革命

ヘッドホンリスニングスタイルの革命

ヘッドホンリスニングスタイルの革命

ヘッドホンリスニングスタイルの革命

ヘッドホンリスニングスタイルの革命

ヘッドホンリスニングスタイルの革命

ヘッドホンリスニングスタイルの革命

ヘッドホンリスニングスタイルの革命

ヘッドホンリスニングスタイルの革命

ヘッドホンリスニングスタイルの革命

ヘッドホンリスニングスタイルの革命

ヘッドホンリスニングスタイルの革命

ヘッドホンリスニングスタイルの革命

ヘッドホンリスニングスタイルの革命

ヘッドホンリスニングスタイルの革命

ヘッドホンリスニングスタイルの革命

ヘッドホンリスニングスタイルの革命

ヘッドホンリスニングスタイルの革命

ヘッドホンリスニングスタイルの革命

ヘッドホンリスニングスタイルの革命

ヘッドホンリスニングスタイルの革命

ヘッドホンリスニングスタイルの革命

ヘッドホンリスニングスタイルの革命

ヘッドホンリスニングスタイルの革命

ヘッドホンリスニングスタイルの革命

ヘッドホンリスニングスタイルの革命

ヘッドホンリスニングスタイルの革命

ヘッドホンリスニングスタイルの革命

ヘッドホンリスニングスタイルの革命

ヘッドホンリスニングスタイルの革命

ヘッドホンリスニングスタイルの革命

ヘッドホンリスニングスタイルの革命

ヘッドホンリスニングスタイルの革命

ヘッドホンリスニングスタイルの革命

ヘッドホンリスニングスタイルの革命

ヘッドホンリスニングスタイルの革命

ヘッドホンリスニングスタイルの革命

としている。日光が当たりづらい環境でゆっくりと成長したため、現在流通する天然メイプル材と比べて木目がひじょうに細かく硬い特徴を持つ。

そして、イヤークラッドには低反発ウレタンと人肌に近い感覚の合成皮革を採用。ヘッドバンドの内側はスエード調の人工皮革「ウルトラスエード」とし、肌触りのよさとメンテナンスのしやすさを

両立。ハンガー部などにマグネシウムを使って軽量化を図るなど、装着しているのを忘れるほどの快適さを追求した。

**理想的な環境で行なわれるユーザーのための特別な測定**

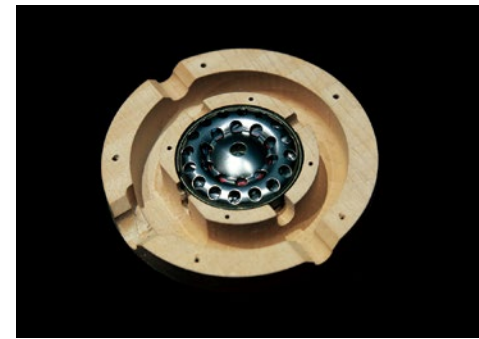
そして、実際にデータの測定を体験してみた。その場所はもちろんピクチャースタジオの「EX Room」。遮音性の



↑Android、iOS向けの音楽再生アプリWiZMUSIC(無料)が頒布される。左写真の画面下「EXOFIELD」をタップすると、頭外定位技術のオン/オフを切替えることができる。また、「奥行き感」の調整などの機能も備えている(右写真)。このほか、Windows用の定番音楽再生ソフトfoobar2000でもエクソフィールドでの音楽再生が可能になるという※画面及び機能は最終ではありません



↑ヘッドホンのハウジング部分には「アクアティンバー」というヴィンテージのメイプル材を使用(右)。左の一般的なメイプルと比べて木目が細かく硬い。これが音質に有利に働くのだという



↑ハウジングに直接ドライバーを固定する「ダイレクト・マウント」方式を採用。ハウジング自体がフレームとして十分な強度を持ったモノコック構造で、不要な振動を低減する効果を狙っている

高い静かな空間で残響も少なめだ。ここで会話をすると明瞭に聞こえ、居心地のよい自然な音響に整えられていることがわかる。その室内にはモニターとしてPMCのMB2が5台あり、それぞれブライトンのモノラルパワーアンプで駆動される。

測定には、やや細身の聴診器のようなマイクを使う。まずはマイクを装着してスピーカーからのテスト音を聴く。プチプチ、という感じの短いパルス音だ。続いて、そのままヘッドホンを装着してヘッドホンからのテスト音を聴く。測定そのものはごく短時間で、説明を聞きながらでも数分で完了する。

そして、いよいよ試聴だ。まずはスピーカーでいくつか音楽を聴き、続いてヘッドホンで同じ音楽を聴いた。エクソフィールドをオンにすると、頭の中で

鳴っていた音楽がパッと前方に広がり、目の前にあるスピーカーから聴こえるのと同じ音場感になる。これはかなりの驚きだ。こうしたヘッドホンによる頭外定位はバーチャルサラウンド技術などによって実現されたものもあるが、それらとは一線を画す。ヘッドホンで聴いているという感じがまったくしない。

ヘッドホン自体の音質も大きく変化。HAWM90自体の音は、色づきの少ない自然なもので、エクソフィールドなしで音楽を聴くと、とても耳あたりがいい。解像感が高いけれども感触は柔らかく、スムーズで聴き心地がいいのだ。それが、エクソフィールドをオンにすると、PMCのスピーカーのような勢いのある音になる。音像の実体感やディテールの彫りの深さ、弾力のある低音感はずバズヴォーカルをグルーヴ感